

『Global Trade Atlas』—貿易データベースの紹介

後 藤 健 太

関西大学図書館では2014年4月より、世界の主要国の貿易データが体系的に網羅されているGlobal Trade Atlas (GTA)というオンラインのデータベース(ソフトウェア)の購読を開始した。このデータベースは、米国のGlobal Trade Information Services社の提供するサービスで、世界の主な大学や研究機関で導入されているほか、多くの国の政府や国際的なビジネスを展開する企業などでも積極的に利用されている。

同データベースでは、「商品の名称及び分類についての統一システム(Harmonized Commodity Description Coding System)に関する国際条約(HS条約)」で制定されたHSコードによる商品分類に基づいて、その品目ごとの輸出入データを金額および数量で取得することが可能である。このHS分類は、各国で財を輸出入するときにかかる実行関税率と紐付けられており、上6桁まではHSコードを利用する全ての国との間で共通となっている。

その先のHSコード分類の詳細度(桁数)は国によって異なるが、日本では各商品を9桁、米国では10桁まで分類している。具体的な事例で示すと、例えばHS62という分類(2桁)は「衣類及び衣類附属品(メリヤス編み又はクロセ編みのものを除く。)」という大きな商品品目を括る大分類である。つまり、ニット生地を用いない、織物生地を使用した衣類または衣類附属品、ということになる(ニット生地による製品はHS61分類に含まれる)。この大分類は、例えばさらに次のように細分化されている。

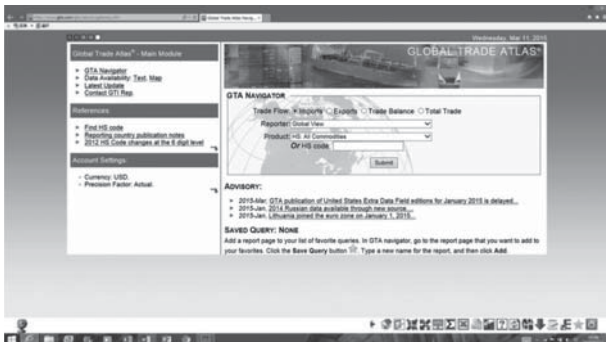
- HS62 から派生する4桁コードの例として、HS6201：織物生地をベースとした衣類・衣類附属品(HS62)の中でも、特に「男子用のオーバーコート、カーコート、ケープ、クローク、アノラック(スキージャケットを含む。)、ウインドチーター、ウインドジャケットその他これらに類する製品(第62.03項のものを除く。)」を指す。

- 上記HS6201 から派生する6桁コードの例として、HS6201.11：その上位の4桁コード(HS6201)の「男子用オーバーコート…」の中でも、「羊毛製又は織獣毛製のもの」のみを指す。この6けた分類はさらに次のような、9桁のより詳細な基準に分類される。

- 9けた分類の例、HS6201.11.100：その上位の6桁コード(HS6201.11)の商品群の中でも、「毛皮付きのもの」のみを指し、より詳細な商品レベルへと落とし込まれていく。

GTAは、現時点でこうした詳細な商品品目レベルの貿易データを82ヶ国についてカバーしているが、その当該国のデータは、それぞれの国の税関などといった公的なデータ・ソースから、GTAが独自のオンライン・ソフトウェアを通じて利用者に提供するというものである。こうしたデータは、各国の担当部局のデータベースから直接・個別に取得をすることが可能だし、また多くの国の貿易データは国連統計局の運用するUN Comtradeでも入手が可能である。しかし、こうした個別国のデータを一つ一つとっていくのは多くの手間と時間を要し、幅広い商品コードについて、複数国のデータを複数年にわたってとることは現実的でない。また、国連データベースでは、複数国にわたる比較的大まかな分類の貿易データはとれるものの、詳細な9桁や10桁レベルのHS分類データの一括取得はできず、限定的なデータしかとれない。GTAの特に優れている点は、先ほどの例を用いていえば、たとえば日本が中国から輸入している織物生地をベースとした衣類品(HS62)を、その大分類の下にある9桁コードすべての商品品目の輸入数量および金額を一括で表示・ダウンロードでき、さらにこのデータが時系列でも簡単に取得できる点にある。詳細な品目レベルの輸入金額と数量がわかるということは、当然個別商品レベルの輸入単価(およびその経年変動)に関するデータも

取れることを意味する。こうしたデータへの容易なアクセスは、国際貿易データを用いて学術的な研究を行おうとする場合、非常に重要となる。



上の図は、関西大学図書館のデータベースポータルにログインした後に現れる GTA データベースのインターフェース・ページである。見ての通り、非常にすっきりとした構成となっており、操作のシンプルさが伺える。ここで、輸出、輸入、貿易収支、輸出入合計などといった、表示したいデータ種目を選び、さらに報告国 (Reporter) と製品 (Product) を選べば、次のようなページが表示される。

Rank	Commodity	Unit	Description	2012	2013
1	62	USD	Apparel Articles And Accessories, Not Knit	12,145,481,227	11,484,268,736
2	62042200	USD	Woven Of Or Like Trousers, Bk And Brn	1,072,258,847	1,128,594,844
3	62054200	USD	Woven Of Or Like Trousers, Bk And Brn	621,000,081	53,079,264
4	62161000	USD	Woven Of Or Like Trousers, Bk And Brn	599,315,828	576,132,881
5	62030000	USD	Woven Of Or Like Trousers, Bk And Brn	583,751,247	57,248,815
6	62021000	USD	Woven Of Or Like Trousers, Bk And Brn	462,854,863	18,118,838
7	62034200	USD	Woven Of Or Like Trousers, Bk And Brn	326,264,300	51,162,851
8	62063020	USD	Woven Of Or Like Trousers, Bk And Brn	489,982,534	432,787,824
9	62121000	USD	Woven Of Or Like Trousers, Bk And Brn	488,875,342	444,634,791
10	62084020	USD	Woven Of Or Like Trousers, Bk And Brn	505,323,450	470,984,581
11	62045200	USD	Woven Of Or Like Trousers, Bk And Brn	405,693,733	45,885,762
12	62023000	USD	Woven Of Or Like Trousers, Bk And Brn	415,557,051	24,847,770
13	62031100	USD	Woven Of Or Like Trousers, Bk And Brn	402,718,347	4,888,795

上は日本が中国から輸入している繊維物生地を使用した衣類・衣類付属品 (HS62) の品目ごとの金額および数量のデータの一部である。この表では2012年から14年までの輸入金額・数量が9桁の商品コードごとに表示されているが、日本の輸入統計データについては、現時点では1994年から2014年までの21年間分が同データベースから取得可能となっている。この9桁レベルのデータは、クリックひとつで一括してエクセルファイルとして保存が可能であり、また参照期間を変更することで、1994年からの時系列データを自在に取得することができるのである (なお、データの取得可能な年は国によって異なる。たとえば米国のデータについては1991年からのものが取得できる)。

こうしたデータの利用方法は、研究分野や問題関心に応じて無限の可能性があるが、事例を一つだけ紹介しておこう。

例えば、途上国の輸出構造がどのように変化 (高度化) していったのかを定量的にみるために、ある国の輸出に関する貿易データを利用することとする。その際、一国の輸出構造の変化を輸出総額や、「衣料品」、「自動車」や「農産品」などといった大分類に基づく「産業」構造ごとの平均値の変化のみで見た場合、産業内での製品の高度化 (より付加価値の高い品目へのシフト) や、個別製品レベルのイノベーションなどによる高付加価値化、あるいは単なる価格変動によるものといった異なる要因がそこにすべて含まれてしまうため、これらの個別要因の影響がうまく把握できず、どうしても表面的な分析しかできない。こうした場合、GTAの9・10桁レベルの詳細なデータを使うことで、これらをうまく分離し、大きな貿易上の変化も異なる個別の要因毎に定量的に把握することが可能となる¹⁾。

冒頭でGTAが世界の多くの主な大学や研究機関で利用されていると書いたが、日本では企業や民間のシンクタンクでの利用が以前からあったものの、大学などの研究機関での導入はあまり進んでいなかった。そのため、大学教員・研究者がそのデータベースにアクセスしようとするれば、日本貿易振興機構 (JETRO) の東京もしくは大阪のビジネスライブラリー、あるいは同機構のアジア経済研究所の図書館に向くくらいしか選択肢がなかったのである。ただしこれらの図書館で同データベースにアクセスできたとしても、著作権の問題から、部外者はそのデータを紙面に印刷することしかできず、データ自体のUSBなどへのダウンロードと持ち出しは許可されなかったのである。一つの商品項目でも、何年にもわたって複数国のデータをプリントアウトする場合、紙の量も膨大になる。また、データ項目も優に数千を超えるため、これらを紙面から再度手でエクセルなどのスプレッドシートに入力するのは非現実的であり、その後の計量的な分析が、データへのアクセス制限から事実上できない事態に、歯がゆい思いをしたものであった。

現在でも当データベースを導入している日本の大学数はまだ限定的であるが、本学がその利用を開始した2014年度前後から、近隣では立命館や同志社、龍谷などといったいくつかの大学でもその購読が始まったのである。世界経済の統合が、グローバ

ルレベルでの自由貿易体制の深化、また今日とりわけ顕著である二国間の貿易協定の制定、さらには環太平洋パートナーシップ協定（TPP）や東アジア地域包括的経済連携（RCEP）といった特定地域内の貿易協定・経済連携枠組みの出現で、詳細な貿易データを用いた研究・分析の必要性の高まりがこの背景にあるのかもしれない。ただし、他の大学の当データベースのカバレッジが限られたいくつかの国に限られているのに対し、本学の購読条件は最も包括的なデータベースのすべての国・品目を対象としている。この点は他大学の研究者から大変うらやましがられている点である。グローバル化に対応することはどこの大学でも重要な問題だが、関西大学とし

ては、研究面でこれをリードするという意味でも現在の GTA の包括的な購読を継続してほしい。

注

- 1) こうした研究の一例として、拙著 Kenta Goto (2014) “Vietnam: Upgrading from the Export to the Domestic Market” in Fukunishi, Takahiro and Tatsufumi Yamagata (eds.) *The Garment Industry in Low-income Countries: An Entry Point of Industrialization*, New York and Basingstoke: Palgrave Macmillan, pp.105-131. を参照してほしい。

（ごとう けんた 経済学部教授）